

最大のスポーツ祭典であるリオオリンピックも終了し、熱気と興奮の余韻が残る先生方も多いのではと思います。次回の東京オリンピック、パラリンピックでは、さらなる感動を心待ちにしております。

このたび、「脊椎脊髄ジャーナル」の編集委員を拝命いたしました。「脊椎脊髄ジャーナル」は1988年に創刊され、過去30年にわたる歴史ある学術誌であり、毎号特定のテーマをもとに企画編集され、その道のエキスパートが執筆しております。このような体裁の月刊誌は大変珍しいのではと考えますが、長期にわたる編纂の中で、この領域のほぼすべての分野が網羅されており、ある疾患や病態を回顧するにあたり、大変利便性の高い冊子になっています。また、同一テーマが繰り返されても、旧号を振り返ることにより時代による診断治療の限界が理解でき、新号では最新知見が上乘せられ、医療の変遷と進歩、今後の課題が示唆されます。私もかれこれ20年以上個人購読を継続しており、今や最も熟読し、頼りにしているバイブルになっています。今後も読者にとって有益な情報が提供できるよう尽力したいと心得ます。

さて、今回のテーマである脳脊髄液漏出症は、2006年、2009年、2012年に“低髄液圧症候群（脳脊髄液減少症）の最新動向”として3回の特集が組まれており、販売部数の実績を鑑みてもこの疾患の関心の高さ、臨床社会面での重要性がうかがえます。さらに、厚生労働省研究班の審議も進み診療基準が確立され、本年4月より硬膜外自己血注入法（ブラッドパッチ療法）が保険収載されたこともあり、まさにタイムリーな特集であります。臨床徴候や画像所見の判定基準がどのように推移してきたか、診断根拠および治療のポイントとして何が重要視されるべきか、これまでの問題点を踏まえ新たな診断治療の標準化に至った経緯と苦労が伝わります。また、本号にはこの疾患に関わる追加情報も多く、必須な検査、既存の特徴的な所見だけでなく新たに着目すべき画像知見も記載されています。さらに、慢性硬膜下血腫の併存例の治療に関しては戦略性が高く、安易な治療選択は致命的な合併症も生じる得ること、小児例では潜在的な患者も多く、診断に至らず登校状況にも多大な影響を与えていることなど重要な注意喚起もなされています。軽微な外傷でも生じ得る疾病で罹患患者も予想以上に多いと推察されます。この疾患に関するこれまでの特集号と合わせて、さらに知識をアップデートすべく是非お読みいただきたいと思います。

（高橋敏行）

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

長島親男 小野啓郎 萬年 徹
高橋 昭 金田清志 小山素磨
小柳知彦 田代邦雄 国分正一
服部孝道

編集委員

徳橋泰明（編集委員長）
金 彪（副編集委員長）
青木茂樹 安藤哲朗 園生雅弘
高橋敏行 高安正和 田口敏彦
谷 論 中村雅也 根尾昌志
飛驒一利 松山幸弘 山崎正志

Vol. 29 No. 10
(2016年10月25日発行)

毎月1回25日発行

1部定価（本体2,300円＋税）

（配送料別）

年ごめ予約購読料 30,700円＋税

送料弊社負担

発行／株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷6-17-9

本郷網ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>

（担当：山岸）

印刷所／三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所／

（株）文栄社

TEL 03-3814-8541

（株）ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.
6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2016,
Printed in Japan

JCOPY 〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-3513-6969、FAX 03-3513-6979、e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。